

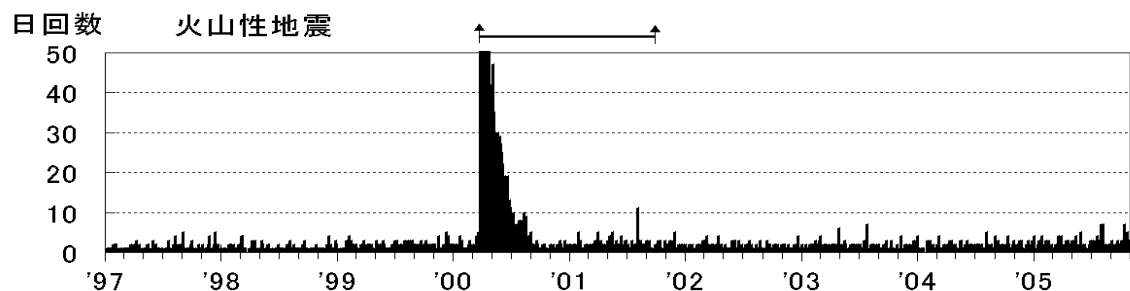
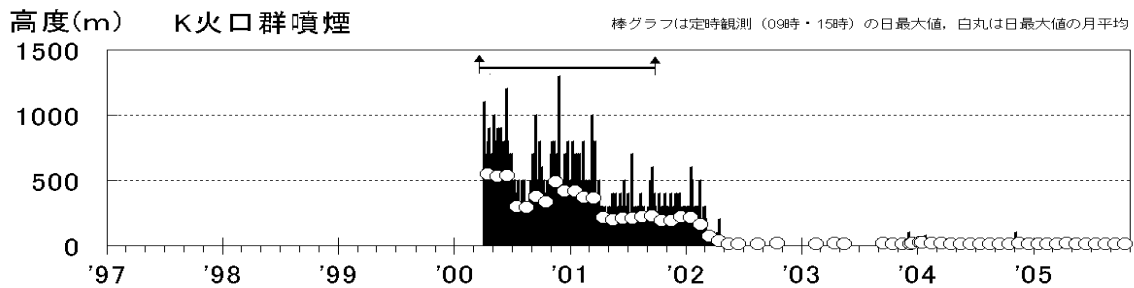
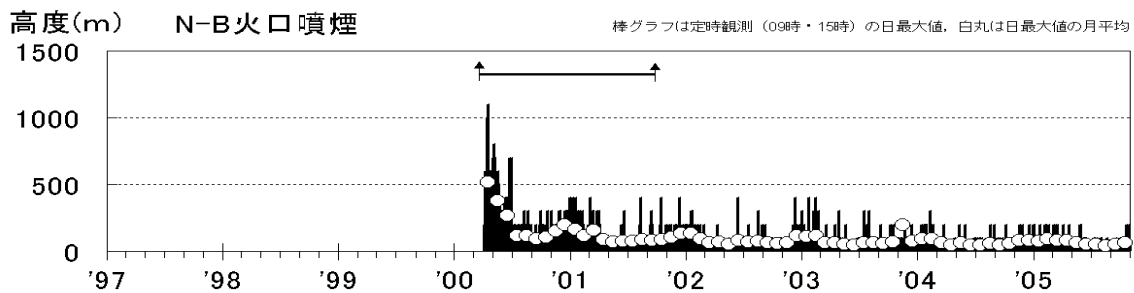
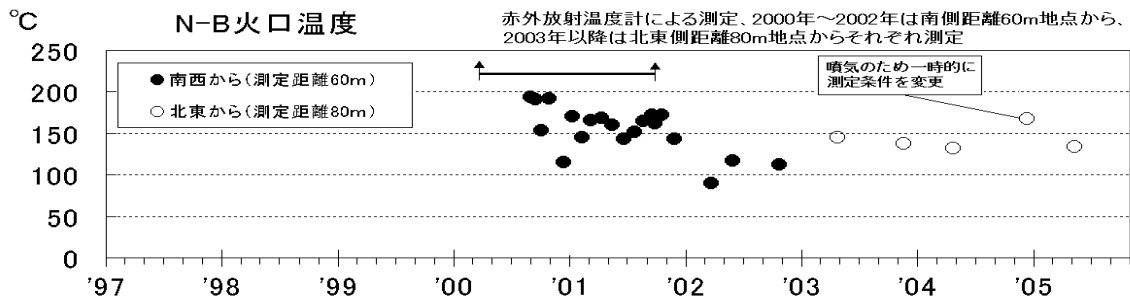
有珠山

1 概況

火山活動は静穏な状態が続いています。

2 噴煙の状況

西山西麓(N)火口群にあるN-B火口では、弱い噴気活動が続いており、噴気の高さは火口縁上おおむね100m以下で推移しました。金比羅山(K)火口群では、時折ごく弱い噴気が観測されました。その他、山頂火口原や昭和新山でも少量の噴気活動が続いていますが、これまでと比べて特に変わった様子は認められません。



最近の火山活動経過図(1997年1月1日～2005年10月31日)

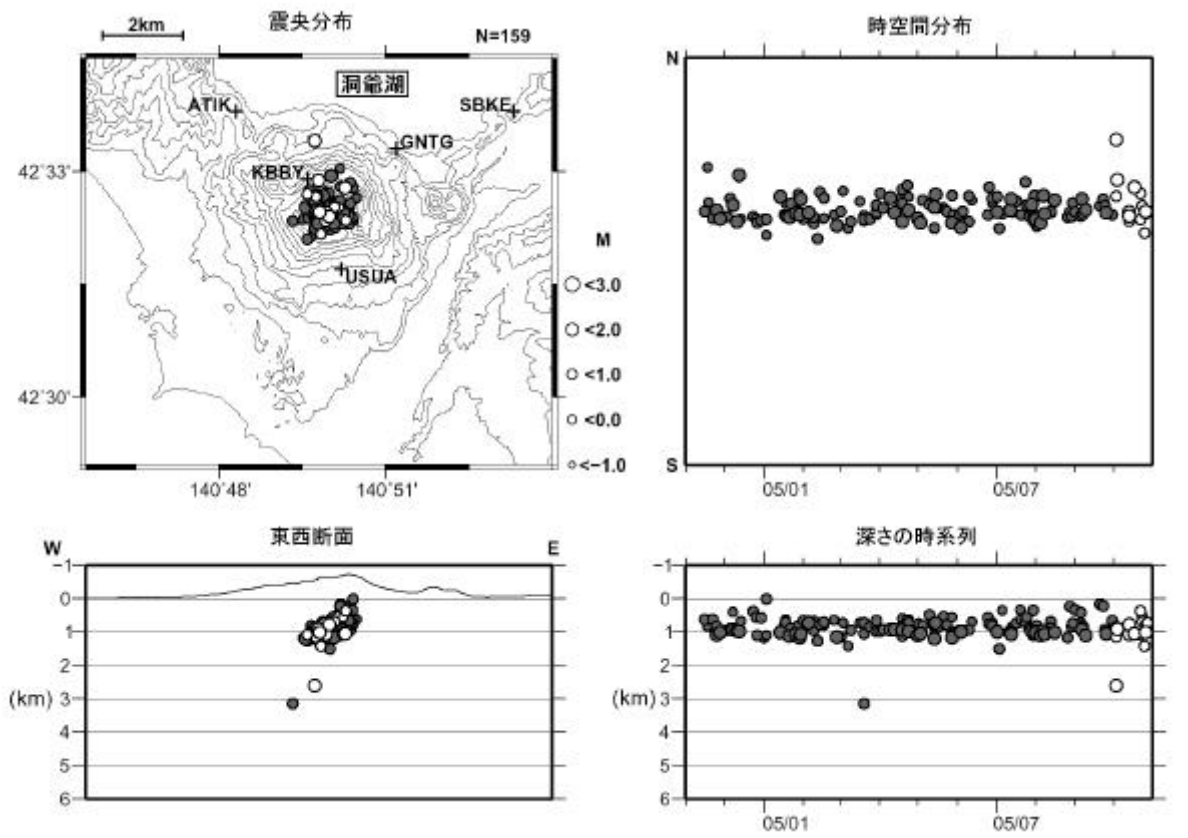
印で挟まれた期間は2000年噴火活動期

3 地震および微動の発生状況

火山性地震は1日あたり0~7回と概ね平常レベルで推移しました。火山性微動は観測されませんでした。

地震・微動の月回数(A点)

| 2004~2005年 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 |
|------------|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 地震回数 | 23 | 28 | 30 | 24 | 22 | 24 | 36 | 18 | 44 | 37 | 29 | 35 |
| 微動回数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |



有珠山の震源分布図(丸印:震源 +印:地震観測点)

印は今期間(2005年10月1日~31日)に求めた震源を示しています。

印は前期間までの11ヶ月間(2004年11月1日~2005年9月30日)に求めた震源を示しています。

震源は山頂部直下の海面下1km前後に集中しており、今期間に求めた震源はほとんどがこの領域内に分布しています。

震源分布図の説明

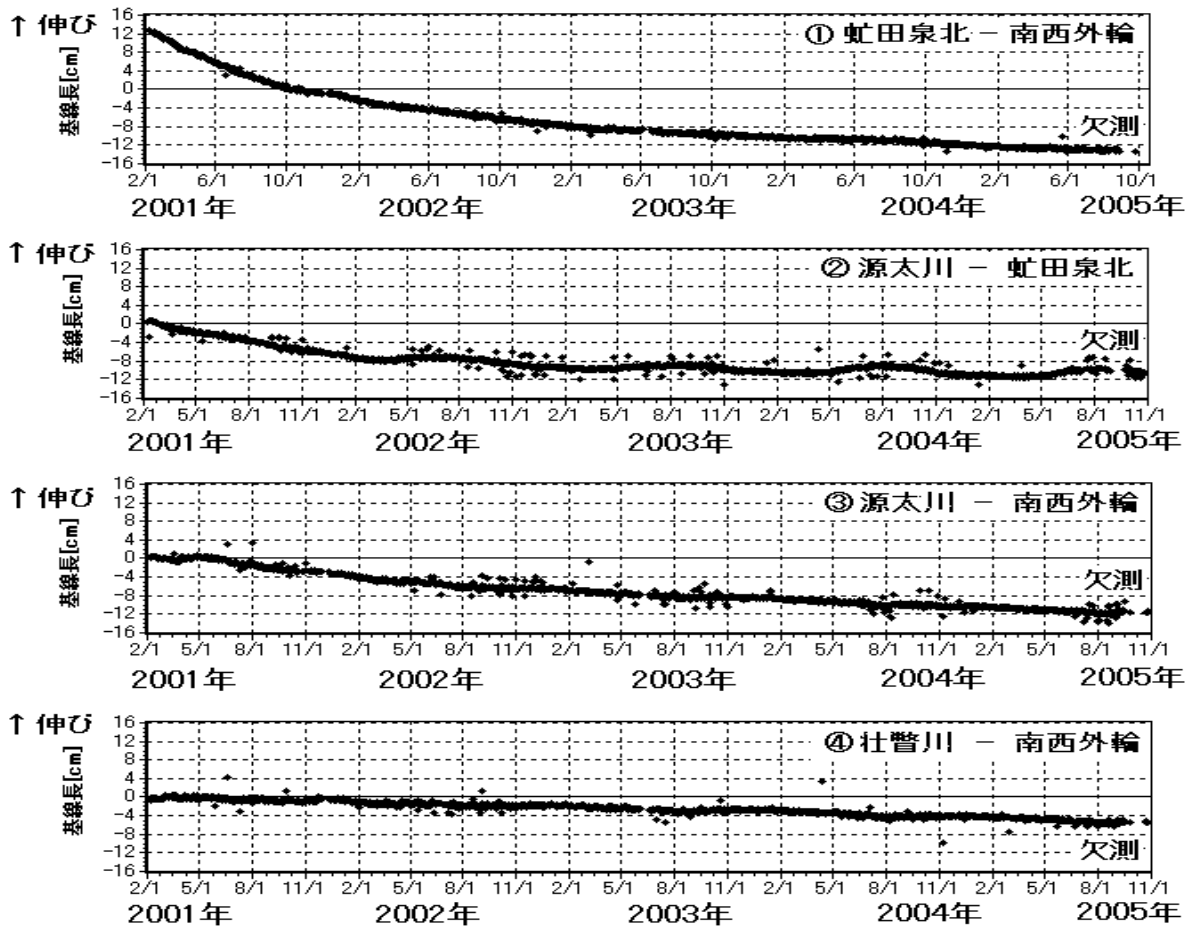
東西断面 震央分布で表示された範囲を東西面に投影して、地震の垂直分布を示した図です。

時空間分布 震央分布で表示された範囲を時間経過とともに南北面に投影することで、震央の位置がどのように推移しているかを示した図です。

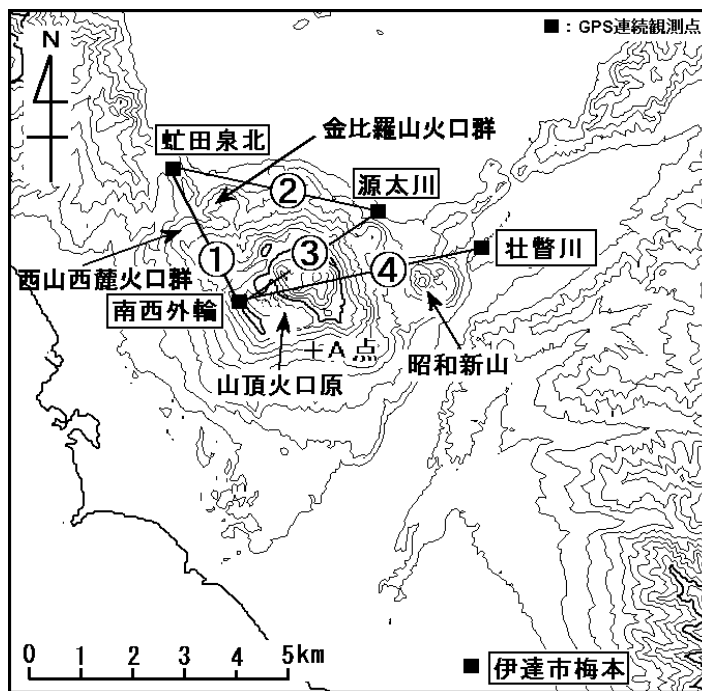
深さの時系列 時間経過とともに震源の深さがどのように推移しているかを示した図です。

4 地殻変動の状況

GPS 連続観測では、新たな火山活動に関連すると考えられる変動は認められません。



基線長変化(2001年2月9日~2005年10月31日)



5 上空からの観測結果

10月12日に北海道開発局の協力を得て上空からの観測を実施しました。

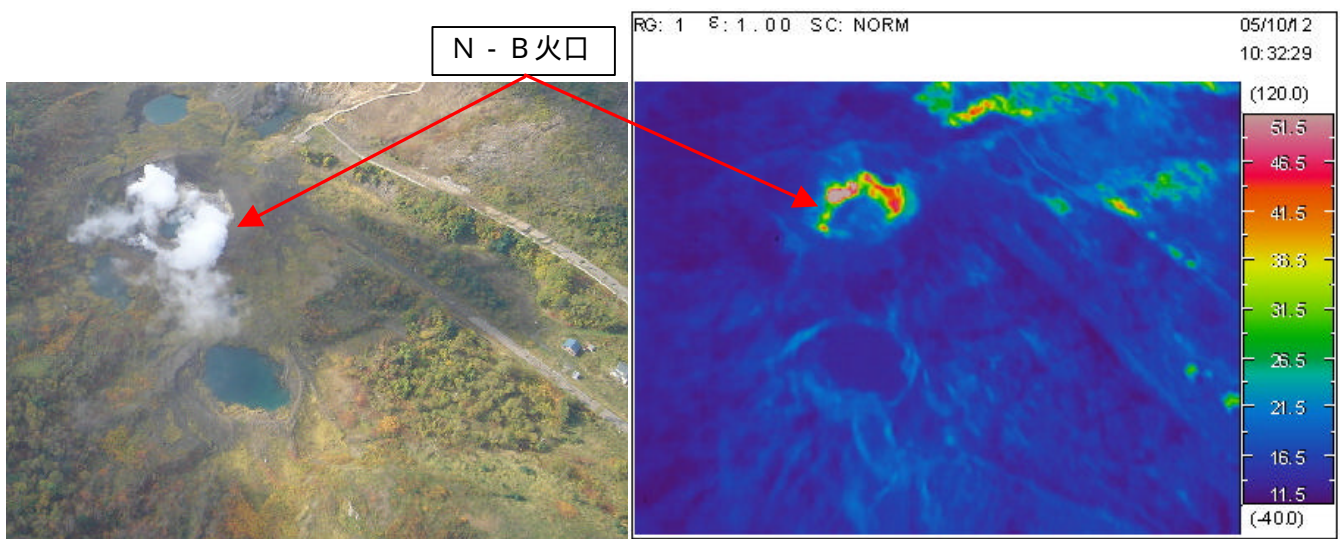
西山西麓火口群、および山頂火口原ではこれまでと比べて特段の変化はありませんでした。赤外熱映像装置*による観測では、各火口の温度分布に変化は見られませんでした。

西山西麓火口群

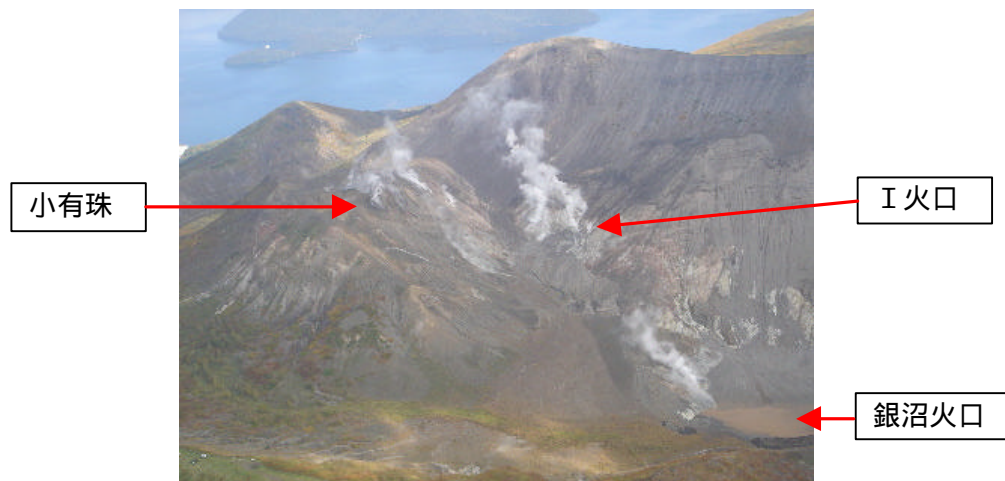
N-B 火口では、火口壁のほぼ全体から白色の噴気を噴出していました。噴出の勢いは弱く、高さ 50m 程度で東へ流れていました。これまでの状況と比較して特に変化は認められませんでした。

山頂火口原

I 火口および小有珠の複数の噴気孔および銀沼火口西壁の変色域から白色の噴気が最大 100m 程度上がっていました。これまでの活動と比較して、特に変化は認められませんでした。



北西側上空から測定した N - B 火口周辺の表面温度分布



南側上空から撮影した山頂火口原

* 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。